

公立大学法人三条市立大学

令和3年度 業務実績に関する評価書

三条市公立大学法人評価委員会

目次

令和3年度 業務実績評価書について	1
令和3年度 評価結果	
■ 全体評価	2
■ 大項目別評価	
○ 教育研究等の質の向上に関する事項	4
○ 業務運営の改善及び効率化に関する事項	6
○ 財務内容の改善に関する事項	7
○ 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項	8
○ その他業務運営に関する事項	9
■ 事業単位評価	10
■ 指標単位評価	26
■ 参考資料	
○ 公立大学法人三条市立大学中期目標	28
○ 各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領	30

令和3年度 業務実績評価書について

三条市公立大学法人評価委員会は、「公立大学法人三条市立大学 各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」に基づき、令和3年度における公立大学法人三条市立大学の業務実績に関する評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性や業務運営の自主性・自律性に配慮し行うものとする。
- (2) 評価は、法人の業務運営の自主的かつ継続的な見直し・改善を促し、法人の業務の質的向上、業務運営の効率化、透明性の確保に資するものとする。
- (3) 評価は、中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を確認する観点から行い、総合的に行うものとする。

2 評価方法

(1) 全体評価

大項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

(2) 大項目別評価

事業単位及び指標単位評価の結果を踏まえ、5つの大項目ごとに中期計画の進捗状況について評価を行った。

(3) 事業単位・指標単位評価

年度計画に記載された事業単位及び評価指標単位の実施状況や達成状況を確認し評価を行った。

令和3年度 評価結果

■ 全体評価

中期計画の進捗は概ね順調である

1 評価理由

大項目別評価は次ページの表のとおりとなり、全てにおいてB評定となったことから、全体評価は「中期計画の進捗はおおむね順調である」と判断した。

2 評価概要

今回、開学後の初めての評価となるが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい感染が拡大していく中、大学では新型コロナウイルス感染症に対する安全対策をしっかりと行い、「我々の学びは対面でなければその魅力を味わうことができない」という大学側の思いと、その思いを真摯に受け止めて実行した学生の意識の高さにより、遠隔授業は一切行わず学内感染者ゼロとしたことは、まずもって大いに評価すべき点であるといえる。

以下に特筆すべき点を記載する。

大項目1、教育研究等の質の向上に関する事項の評価はB評定であるが、そのうち令和3年度計画に対する実績がA評定となった項目が7項目となった。中でも産学連携実習の受入先となる121社との協定締結は高い評価を得られた。受入先の選定についても、企業によっては「学習」ではなく「作業」になることが懸念される中、一定の基準を持ってしっかりと選定していることも評価できる。

大項目3、財務内容の改善に関する事項の評価はB評定であるが、そのうちA評定となった1項目は、多大な寄附金を獲得したことにより学生の教育環境が整備された点について高く評価された。大学の設置地域は全国有数の金属加工技術の集積地でものづくりが盛んな土地柄もあり、地元企業の大学に対する期待の大きさが伺える。

全体を通して評価が高かったのは知的ものづくりセミナーで、全項目合わせて7回再掲されている。月1回2人の教員が講師を務め自らの研究内容を紹介するセミナーを開催しており、毎回70人もの参加者が集うこと、地域企業と連携し研究成果の活用を検討するとともに、地域企業との共同研究を視野に入れていること、地域への学びの機会を提供していることなど、地域と深い繋がりを持つことに対し高い評価が得られた。

事業単位評価を実施する際に必要な「主な実績」について、評価委員会による法人へのヒアリングで明らかとなった実績が多々あったことから、次年度以降の業務実績に関する報告書作成時は、必要な実績を整理して丁寧に記載することを望む。

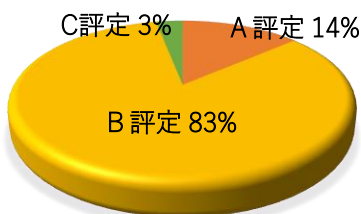
中期計画成果指標の達成状況では、全14項目のうち今回評価対象となった5項目全てがA評価となっているが、中でも志願倍率は目標値（3倍以上）を上回る5倍となっており、大学が多く受験生に認知されていることがわかる。その主な要因として広報活動が挙げられ、県内外合わせて延べ200校近くの高校への訪問活動や近隣県で教員説明会を実施するなど志願者増加に向けた活動を行ったことが成果に繋がったといえる。

また、令和3年度は定員超の82人の学生を迎えたが、市内の入学者は4人で、県外からの入学者は半数以上の47人であった。市内の入学者を増やす努力が必要であると同時に、地域外からの学生でも将来地域内に就職することを目指してもらうための努力も必要との意見があった。

以上のことから、開学初年度の滑り出しは概ね順調であると評価。中期計画最終年度の令和8年度には全てにおいて高評価を期待するが、単にA評価項目を増やすだけでなく、三条市のアイデンティティである「ものづくりのまち」の特徴を生かした個性豊かな大学づくりを希望する。

【大項目別評価の結果】

項目／評価	評価結果	A 中期計画の 進捗は 優れて順調	B 中期計画の 進捗は 概ね順調	C 中期計画の 進捗は 遅れている
1 教育研究等の質の向上に関する事項	B		●	
2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	B		●	
3 財務内容の改善に関する事項	B		●	
4 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項	B		●	
5 その他業務運営に関する事項	B		●	



■ 大項目別評価

○ 教育研究等の質の向上に関する事項

B	中期計画の進捗は概ね順調
---	--------------

1 評価理由

事業単位評価は、37項目中「令和3年度計画を概ね実施」とするB評価が29項目で、全体の8割となった。

また、指標単位評価では、6項目全ての項目が目標値を上回る評価Aとなった。

よって、令和3年度の実績を総合的に勘案すると、B評価相当の結果となった。

【事業単位評価の結果】

評 定	A	B	C
評価目安	上回る	概ね実施	下回る
総項目数 (37)	7	29	1

【指標単位評価の結果】

項目／評定	評 定	A	B	C
	評価目安 〔達成率〕	70%以上	30%以上 70%未満	30%未満
1 教育指標	総項目数 (5)	5		
2 研究指標	総項目数 —	完成年度（令和6年度）以降の評価		
3 地域貢献指標	総項目数 (1)	1		
4 国際交流に関する指標	総項目数 —	最終年度（令和8年度）の評価		

2 評価概要

(1) 教育に関する目標を達成するための措置

- ・産学連携実習の受入企業について、大学設置認可時点93社を、年度末に1.3倍の121社と協定締結を行い、十分な学びの場を確保した。
- ・県内外の高校訪問、オープンキャンパスの開催、SNSによる情報発信など、積極的な広報活動を行ったことにより目標値を上回る5倍という志願倍率を獲得した。
- ・三条商工会議所と連携した知的ものづくりセミナーや小中学生向けのサイエンスフェスタなどを開催し、多くの市民に対し学びの機会を提供するとともに、将来イノベーション

ンを起こすであろう子供たちに対し大学の特徴を十分にアピールした。

- ・学生の大学卒業後の対応について近隣大学大学院や海外大学等との連携等について調査研究するとしているが、幅広く調査しておらず不十分である。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

- ・教員がリレー形式で専門分野を紹介する知的ものづくりセミナーを三条商工会議所と連携して開催し、毎回70人ほどの参加者を集めて科学への理解を深める活動を行った。
- ・外部資金獲得のため、開学初年度の短期間で目標値（完成年度7件/年）を大きく上回る16件の申請を行い、うち科学的研究費に2件採択された。

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

- ・三条商工会議所と連携し知的ものづくりセミナーを4回、小中学生向けのサイエンスフェスタを1回開催し、地域への学びの機会を提供して認知度を高めた。
- ・14人の学生が学生消防団を結成、また、5人の学生が三条市教育委員会が行う学びのマルシェで講師を務めるなど、地域課題の解決や地域の活性化に努めた。
- ・企業の依頼に基づき調査研究を行うための共同研究マニュアルを策定し公表したものの、企業からの支援依頼は1件のみだった。企業への周知方法について再検討が必要である。

(4) 国際交流に関する目標を達成するための措置

- ・留学生等の受入れ開始に向けて、文部科学省事業のオンライン説明会に出席するなど情報収集に努めた。

○ 業務運営の改善及び効率化に関する事項

B	中期計画の進捗は概ね順調
---	--------------

1 評価理由

事業単位評価は、8項目全て「令和3年度計画を概ね実施」とするB評価となった。
また、指標単位評価は対象1項目のみであるが、目標値を上回る評価Aとなった。
よって、令和3年度の実績を総合的に勘案すると、B評価相当の結果となった。

【事業単位評価の結果】

評 定	A	B	C
評価目安	上回る	概ね実施	下回る
総項目数 (8)	0	8	0

【指標単位評価の結果】

項目／評価	評 定	A	B	C
	評価目安 〔達成率〕	70%以上	30%以上 70%未満	30%未満
1 業務運営の改善及び効率化	総項目数 (1)	1		

2 評価概要

(1) 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

- ・大学の方針に沿った運営を行うためFD・SD委員会を設置し、ハラスメント防止講習会や知的ものづくりセミナーなどを開催して、教職員の資質・能力の向上に努めた。

(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

- ・三条工業会などのものづくりの有識者から常時最新情報を入手するとともに、他大学に対しヒアリングを行い教育や研究に関する情報を入手し、学内の各種見直し等に役立った。

(3) 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

- ・「創造性豊かなテクノロジスト」を育成するため、教職員の適切な評価等を行う教員活動評価実施要綱を制定した。

(4) 事務の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置

- ・事務処理方法を明確化し、ルールブックやチェックリストを作成して、事務の効率化を徹底した。

○ 財務内容の改善に関する事項

B	中期計画の進捗は概ね順調
---	--------------

1 評価理由

事業単位評価は、11項目中「令和3年度計画を概ね実施」とするB評価が9項目で、全体の9割となった。

よって、令和3年度の実績を総合的に勘案すると、B評価相当の結果となった。

【事業単位評価の結果】

評 定	A	B	C
評価目安	上回る	概ね実施	下回る
総項目数 (11)	2	9	0

2 評価概要

(1) 自己収入の確保に関する目標を達成するための措置

- ・県内外の高校訪問、オープンキャンパスの開催、SNSによる情報発信など、積極的な広報活動を行ったことにより志願倍率5倍を獲得し、定員を超す82人の学生を迎え入れた。
- ・法人8件、個人1件からの寄附金総額6,292万円を、新規機械の導入や給付型奨学金、寄附講座開設、研究助成金などに活用するとともに、事務用備品等175万円の寄附を受け、教育環境の充実を図った。

(2) 経費の節減に関する目標を達成するための措置

- ・職員の適正配置や、ルールブック、チェックリストなどを活用して無駄を省き経費の抑制を徹底した。

(3) 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

- ・施設巡回などを行い、日々施設設備の維持・管理に努めている。

○ 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する事項

B	中期計画の進捗は概ね順調
---	--------------

1 評価理由

事業単位評価は、2項目全てが「令和3年度計画を概ね実施」とするB評価となった。
よって、令和3年度の実績を総合的に勘案すると、B評価相当の結果となった。

【事業単位評価の結果】

評 定	A	B	C
評価目安	上回る	概ね実施	下回る
総項目数 (2)	0	2	0

2 評価概要

(1) 自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

- ・自己点検・評価委員会を設置し、外部評価機関に関する情報収集を行い、選定方法の検討を進めた。

(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するための措置

- ・ホームページの発信体制を整備し、大学情報を適切に発信するとともに、パンフレットを作成・配布し大学運営の透明性を確保した。

○ その他業務運営に関する事項

B	中期計画の進捗は概ね順調
---	--------------

1 評価理由

事業単位評価は、8項目中「令和3年度計画を概ね実施」とするB評価が7項目で、全体の9割となった。

よって、令和3年度の実績を総合的に勘案すると、B評価相当の結果となった。

【事業単位評価の結果】

評 定	A	B	C
評価目安	上回る	概ね実施	下回る
総項目数 (8)	0	7	1

2 評価概要

(1) 施設設備の整備、活用に関する目標を達成するための措置

- ・年次的な設備等導入計画に基づき、適切な設備の導入を行った。

(2) 安全管理に関する目標を達成するための措置

- ・学生及び教職員の健康診断を行い健康状態を把握するとともに、カウンセラーを配置し相談体制を整備した。
- ・産学連携実習を受講する学生に対し、講義により安全意識を高め、実技研修で安全実習を体感させ、産学連携実習受入先での安全対策を厳しく指導した。
- ・消火・避難誘導マニュアルを策定し、マニュアルに基づく消防訓練を実施した。
- ・セキュリティポリシーについては、起こり得るあらゆるリスクを想定ししっかりとした安全対策を行うため、専門家によるセミナー等を開催して学生及び教職員への意識付けの強化が必要である。

(3) 法令順守等に関する目標を達成するための措置

- ・各種規程の整備を行うとともに、教職員を対象としたコンプライアンス教育を実施し、法令順守を徹底した。